



河口攻略の書

【ご注意ください！】

このレポートは著作権法で保護されている著作物です。

下記の点にご注意ください。

このレポートの著作権は齊藤真吾に属します。

著作権者の許可なく、このレポートの全部又は一部を

いかなる手段においても複製、転載、流用、転売等

することを禁じます。

このレポートの開封をもって下記に記載された
事項に同意したものとみなします。

著作権者の許可なく、このレポートの全部又は一部を
いかなる手段においても複製、転載、流用、転売等
することを禁じます。

著作権等違反の行為を行った場合、その他の不法行為に
該当する行為を行った場合は、関係法規に基づき
損害賠償請求を行う等、民事、刑事を問わず
法的手段による解決を行う場合があります。

このレポートの情報は作成時点での著者の見解等です。
著者は事前許可を得ずに誤りの訂正、情報の最新化、
見解の変更等を行う権利を有します。

このレポートの作成には万全を期しておりますが、
万が一誤り、不正確な情報等が有りましたも
著者及びパートナー等の業務提携者は一切の
責任を追わない事をご了承願います。

このレポートを利用することにより生じた
いかなる結果につきましても、著者及び
パートナー等の業務提携者は一切の責任を
追わない事をご了承願います。

【推奨環境】

このレポートに記載されているURL はクリックできま
す。

できない場合は最新のAdobeReader を下記のページより

ダウンロードしてください。（無料）

<http://www.adobe.co.jp/products/acrobat/readstep2.html>

目次

はじめに

上げ潮編

- ・ まずは岸壁ですが・・・、
- ・ さて、岸壁の次はカケアガリ
- ・ では流芯部、チャンネルです

下げ潮編

- ・夜の岸壁をさぐる
- ・カケアガリも基本は同じ
- ・チャンネルは？

はじめに

これからシーバスを始める

あなたへ贈る、

港湾部というフィールドを

攻略するためのバイブル。

【河口攻略の書】

を作ってみました。

あなたのホームフィールド、
河口を攻めるために必要な
基本的知識と狙うべきポイントに
ついて、詳しく解説しています。

あなたのシーバスフィッシングに
役立てて頂けると嬉しいです。

少し長いですが、最後まで
お付き合いくださいね。

では、ちょっと簡単に自己紹介。



ニックN しん

出身 名古屋

生息地	三重県
誕生日	10月3日
所属	辰年
階級	1児のパパ
流派	ネコ派
仕事	運び屋
趣味	釣り全般

性格 真面目8：不真面目2

優しく温厚で争いを好まない

気は長く、負けず嫌い

妻 可愛くて取っ付き易い性格の

誰からも好かれる料理上手

好きな言葉 未来だけが唯一変えられる！

自業自得！

夢追い人であれ！

いずれ日本全国を

シーバスフィッシングで釣り歩くという

ちっぽけでくだらない野望を持った

シーバスアングララーです。

地球（ほし）と人との繋がりを探めて。

大自然の中に身を置き感じる。
時には静かに、時には激しく生命と対話する。
己の慣性を元に知的に歩む。
その先に待つドラマへと！。

あなたもシーバスフィッシングを始めてみませんか？

という理念をソウルコピーとして

シーバスフィッシングをもっと世の中に

広めていきたい単なる釣りバカです。

よろしくお願ひします。

詳しいプロフィールはこちら

↓↓

<http://seabass-live.link/?p=350>

上げ潮編

【まずは岸壁ですが・・・、】

こんにちは、しんです。

河口部も同じように

岸壁から狙うべきですが

少し条件があります。

河口部で岸壁際が深いという
場所はそんなにはないはずです。

流芯部はともかくとして

護岸際は河川から流されてきた

砂などが積もって浅瀬になっている

パターンがほとんどですね。

ですから、大体どこの岸壁も

港湾部の岸壁のように十分な

水深がないんです。

干潮時など、干上がって

底の砂地が見えているところも

少なくないでしょう。

水があったとしても

底が見えてしまうほど浅いために

シーバスは警戒して岸壁には

近寄って来ないのです。

昼間はね・・・。

ですが、夜はどうでしょうか？

・・・、

もう分かりましたね？

コレが先ほどお話しした**条件**です。

つまり、

夜でなおかつ先行者が入っていない

状態であれば、浅い岸壁沿いにも

シーバスがへばり付いている

事があります。

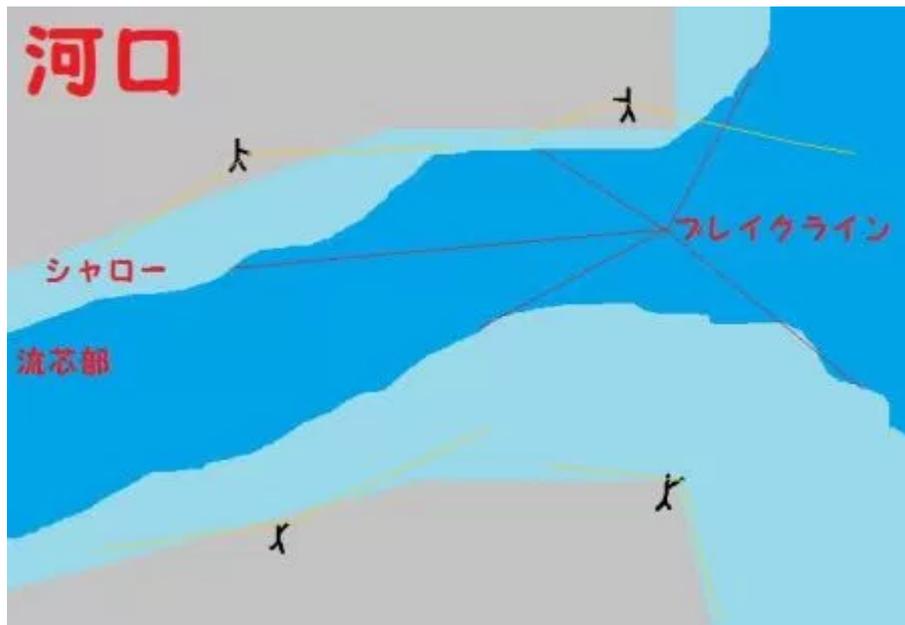
なぜならそこは、

シーバスが身を隠せる岸壁があり

良質な流れがあって、しかも

餌が豊富だから。

下の画像を見て下さい。



岸壁の際へ静かにキャストして
ルアーを引いて来るんですが、
まずは、**流れを確認**してください。

今回は**上げ潮時**の解説なので
下流に向かって激流が流れている
事はありません。

ですが、潮というのは
実は常に一定の強さとスピードで
上げてきているわけではないんです。

強くなったり弱くなったりします。

ですから、まず流れを確認します。

川の上流に向かって流れている
時は、まず川の上流に
キャストしてください。

これは以前もお話しました。

魚というのは基本的に

上流に頭を向けています。

これは流されないようにする

という本能がはたらくからですが、

コレを無視した動きをルアーで

演出してしまうと、シーバスが

警戒してしまうからです。

本能とかの生物学を

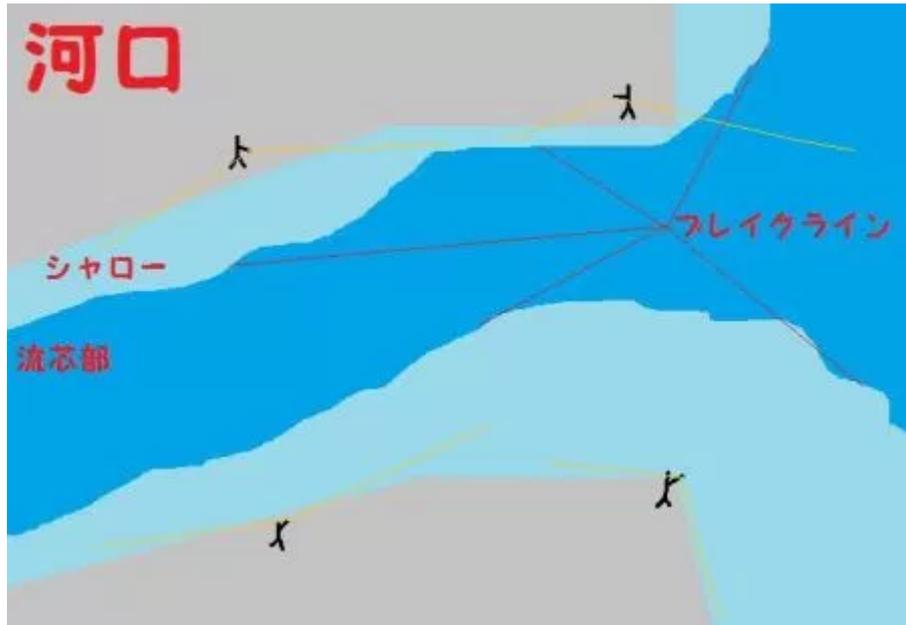
シーバスが理解しているという

わけではありませんよ。（笑）

単純に**違和感**を感じるからです。

ひどい時にはその場からシーバスが

全部いなくなるほど警戒されます。



これはどこのポジションで
釣っていても同じです。

岸壁際では、
河川が逆流している時は
川の上流に向かってキャスト
してください。

そして次は**なんと**、

全く反対へキャストしてください。

コレは何故かと言うと

シーバスは川の上流へと登るとき
必ず流芯部、又は岸際を通ります。

岸際を登るシーバスは当然

登っているので川の上流へ

頭を向けています。

この河口と河川においては

こういう**特殊な状態**が起こります。

流れに逆らって泳いでいない

時があるんです。

ですから両方の向きにキャストします。

そして、この時シーバスは

バイトを食べる気満々で

登ってきます。

つまり活性が高いという事。

ですから、リールは少し

早めに巻いてください。

トゥイッチやジャークを使えるなら

それもアリです。

どちらかと言えばジャークに
近い感じの方が当たります。

では、次は流れが止まっている時。

河川の流れが上げ潮に押されて
下にも上にも流れずに止まって
しまう事があります。

又はよ〜く見ないと流れているのが
分からないくらいの時。

この時はベイトがある程度
自由に動き回れますので
ルアーの向きは気にしなくても
大丈夫です。

もっともベイトが自由に
動けると言う事は広い範囲を
移動できるために

固まっていたベイト達が
散ってしまいます。

こういう時はあまり当たらないので
場所を休ませて、流れだした瞬間に
しっかりとポイントにルアーを
運んで食わせる方法もあります。

ですが、

これは中級者のテクニックで

これから始めるあなたがやるなら

かなりの回数フィールドに

通い詰めないと出来ません。

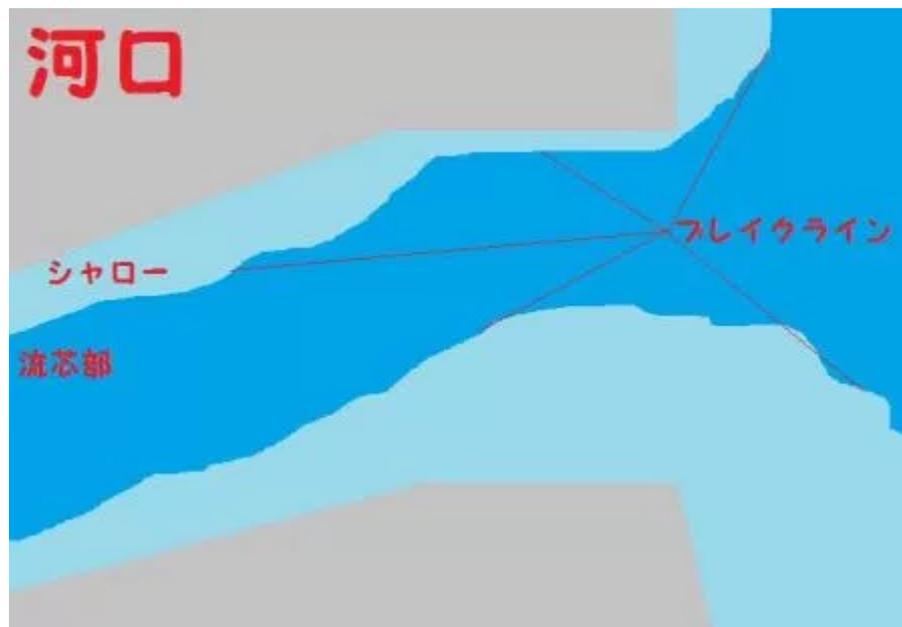
流れの出方や底の地形などを

覚えていないと無理ですから。

だから、まずは考えなくてOKです。

【さて、岸壁の次はカケアガリ】

下の画像を見て下さい。



ブレイクラインと表示されている

所がポイントで、ここは水中で
上り坂の地形になっています。

水中の段差などもそうですね。

ここの深い方にシーバスが身を
隠してベイトを待ち構えています。

そして浅い方にはベイトが
シーバス、又は強い流れを
避けるために避難してきています。

ですが、ブレイクラインに直接
ルアーを打ち込んではいけません。

シーバス逃げるんで。

流れの上流からドリフトという
釣技でブレイクラインにルアーを
送り込みます。



ドリフトとは、ポイントの位置から
計算して上流の沖へルアーを投げて
流れに乗せてルアーを運ぶ方法です。

1番へキャストして、そのまま
ルアーをレンジをキープ出来る
ギリギリの速さで引きながら
2番のブレイクラインへ運びます。

そしてこのカケアガリの斜面には
けっこう小魚が張り付いてますから
この斜面を攻めるのも面白いです。

初夏はハゼの時期、ハゼの次は
ヒイラギが斜面に付きますので
ローリングベイトとレンジバイブを
持っているとかかなり楽しめます。

地域にも寄りますが、
私の地域の河川だと
年明けくらいまでは楽しめます。

【では流芯部、チャンネルです。】

ここはフルキャストの総力戦。

基本、キャスト距離の限界を

攻めるので斜めなんかには

投げてられません。

クロスストリームで攻めて下さい。

クロスストリームとは流れに

対して垂直に投げる事。

この時、狙うタイミングは

上げ潮の先端が
自分の前を通る時です。

下の画像を見て下さい。



淡水と海水とでは
比重がかなり違い、
海水のほうが重たいです。

ですから、潮が上げてくると

画像のような状態が起こります。

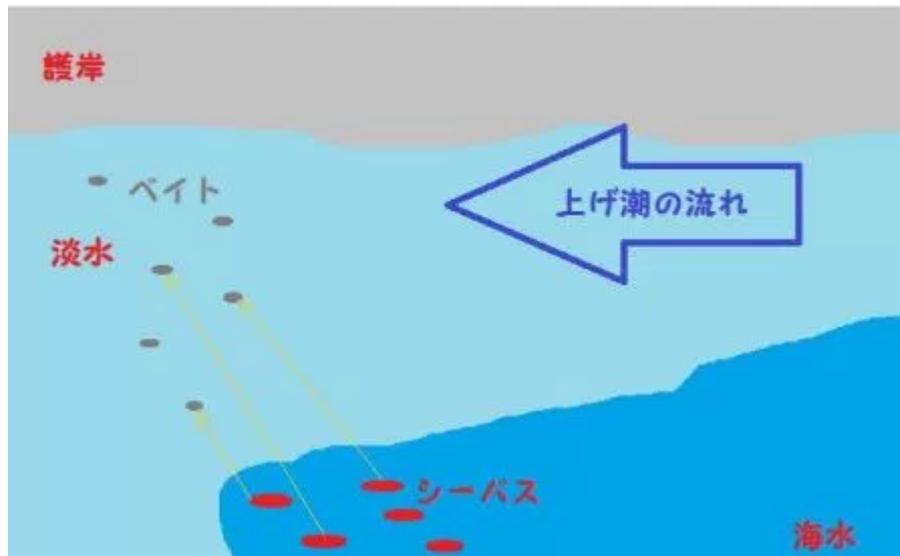
よく**“海水くさび”**とか

呼ばれていますね。

横から見た図がくさび型だからです。

この先端に陣取ってシーバスが

登ってくると言われています。



そして上の淡水層を通りかかる

又は流されてくるベイトに

下から襲いかかります。

このタイミングは非常にシビアで

時合いはすぐに終わってしまいます。

なぜなら、この“くさび”は

どんどん上流に移動していくから。

ここのシーバスも活性は高いです。

私の場合ですと、最初のキャストは
邪道のグラバーというルアーです。

そして反応が悪くなると
ワンダーなどのシンペンに変えます。

グラバーはハイアピール、
シンペンはローアピールです。

この“くさび”といっしょに

私も行けるところまで登っていきます。

この作戦はどこでも出来る

わけではありません。

条件は河口周辺の海に

ベイトの群れに付いて歩いている

シーバスがいることです。

河口の海側でよくナブラが起きたり

いつ行ってもカモメが飛び交ってる

ような河口がいいですね。

ナブラとはベイトが大きな
魚に追われて逃げ場を失い、
水面まで追い詰められた時に

起きる目に見える捕食行動です。

以上が上げ潮時の
河口の攻め方でした。

**いちばんのコツは
干潮時に流深部や周りの底地形を
しっかりと確認しておく事。**

**あなたがドリフトに使うルアーを
昼間に使い倒して、ルアー別の
リトリーブスピードなどの
扱い方をマスターしておく事。**

この2つが出来ていないと

闇雲な釣りしか出来ません。

この2つに一番力を入れてくださいね。

下げ潮編

【夜の岸壁をさぐる】

河口攻略の書、上げ潮編で

河口の岸壁は夜に狙える

スポットだとお話しました。

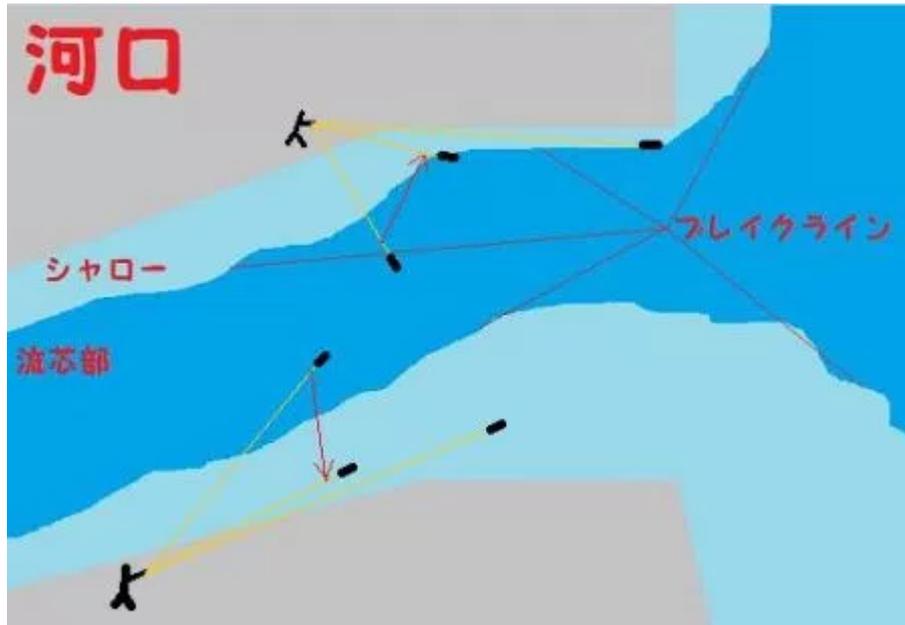
ですが、上げ潮時とは

流れがまったく逆です。

下げ潮の時は完全に下流に
向かって流れています。

しかも、かなりの激流で。

つまり、上げ潮とは一変して
下流ばかりにルアーをキャスト
する事になります。



これはベイトが基本的には
流れの上流に頭を向けて
流れに逆らった状態で
泳いでいるからです。

これに関しては当ブログ内で
くどいくらい書いてきているので
もう知っていますね？

ですが、細かい攻め方で
上げ潮の時とはかなり違います。

まずは、水中の状況を
想像してください。

そして、その中でベイト達が
どういう状況にあるのかを
リアルに想像してください。

そう、あなたはベイトです。

上げ潮が止まってゆっくりと

河川内の水が下流へと

移動していきます。

ゆっくりと流れているだけなので

わりと自由に動けます。

ゆるやかに泳いでいたら

突然潮が下げだしました。

下げ潮の始まりです。

河川の流れと下げ潮の流れが

合わさって、あっという間に

激流に変化します。

かなりヤバいです。

あなたは流されないのので精一杯。

それでも強い流れの中に

定位することは出来ません。

少しずつ流されながらも

ちょっとづつ流れのゆるい

岸際などに寄っていきます。

そう、まさにドリフトで

流されるルアーのような感じで。

なんとか流れのゆるい場所に

たどり着いてみれば、そこには

多くの仲間達が同じように
激流から避難してきていました。

そして、命からがら？避難してきた
その場所で今度は下からシーバスに
襲われて食べられます。（笑）

ここまでリアルに想像出来れば
いい感じです。

あなたがする事は、今まさに
頭の中で想像した状態を
水中でルアーに表現させて
あげればいいんです。

これは下げ潮時の河口の

基本的なスタイルになります。

激流発生時はベイトは例外なく

みんな同じ行動を取ります。

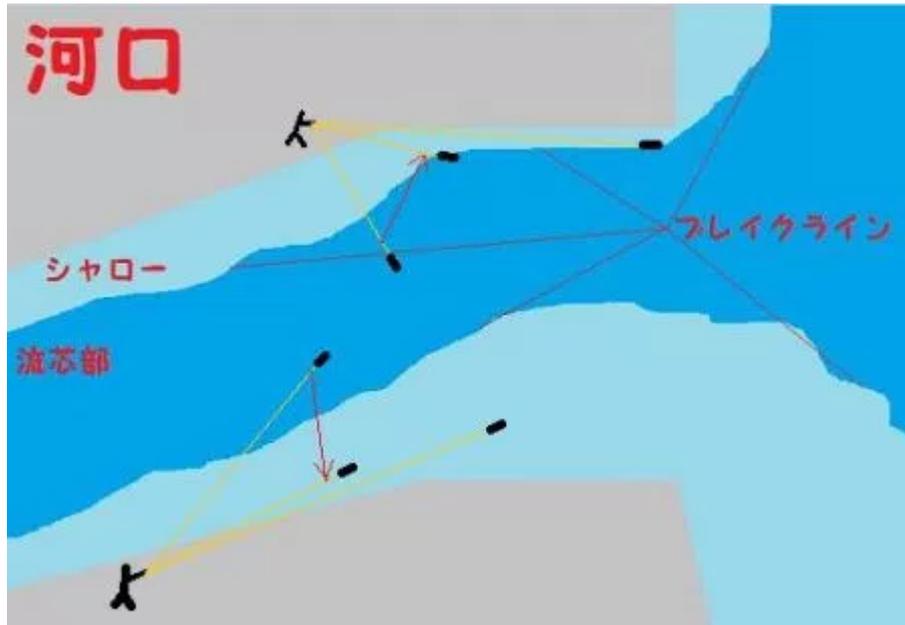
シーバス側からすれば

非常に的を絞ります。

どこに行けばベイトの群れに

ありつけるかを

簡単に正確に判断できます。



岸壁沿いの下流に向かって
静かにキャストするのも
いいです。

が、こうやって考えると
流れの強いところに投げて
ドリフトで岸壁際まで誘導するのも
面白いなあと気が付きます。

つまり下げ潮時の岸壁釣法は
この2つのパターンだけになります。

**もう一つ上げ潮と違う点は
リトリーブスピードです。**

基本、流れに逆らって
泳いでいるために
早くは泳げません。

だから、上げ潮と違って
ゆっくりとルアーを引く事に
なりますね。

いい時は、流れに乗せて

リトリブしないでトゥイッチ

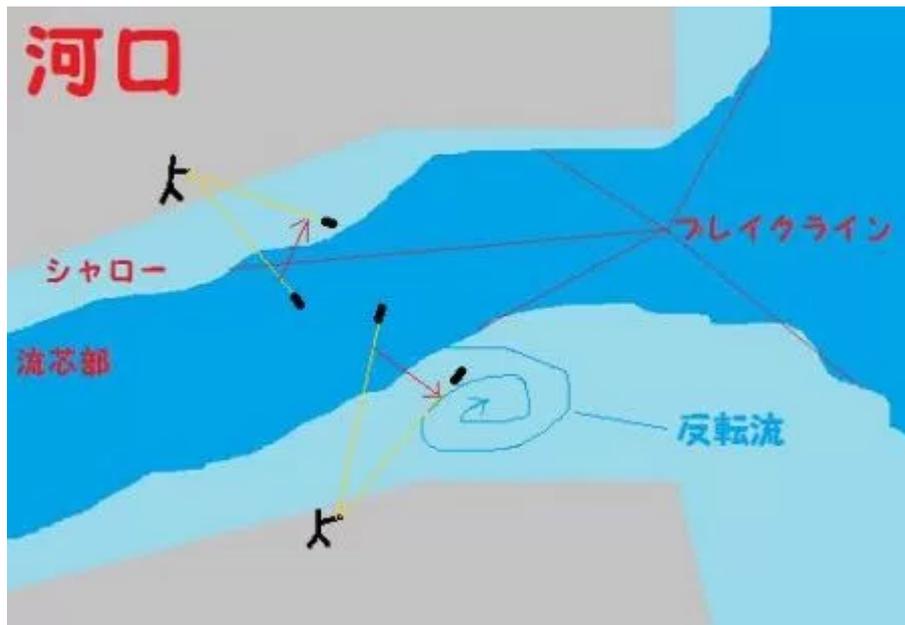
してるだけで食ってくる事もあります。

【カケアガリも基本は同じ】

流芯部ヘルアーをキャストして

流されそうなベイトになった

気分で浅い方へ寄ってきます。



そして、ブレイクラインで
シーバスに食われて
ソウルブレイク。

あっ、ラインブレイクは
しないでくださいね。

下げ潮の時のシーバスの

最初の引きはハンパないですから。

シーバスの走りに下げ潮の
流れと河川の流れが味方します。

シャープに合わせを入れて
ロッドとラインの角度を一定に
保ち、竿先の高さとドラグで
対応してください。

これは以前、ブログの
シーバスファイトの
記事でお話させて頂きました。

「シーバスファイト、

これから始めるあなたへ贈る

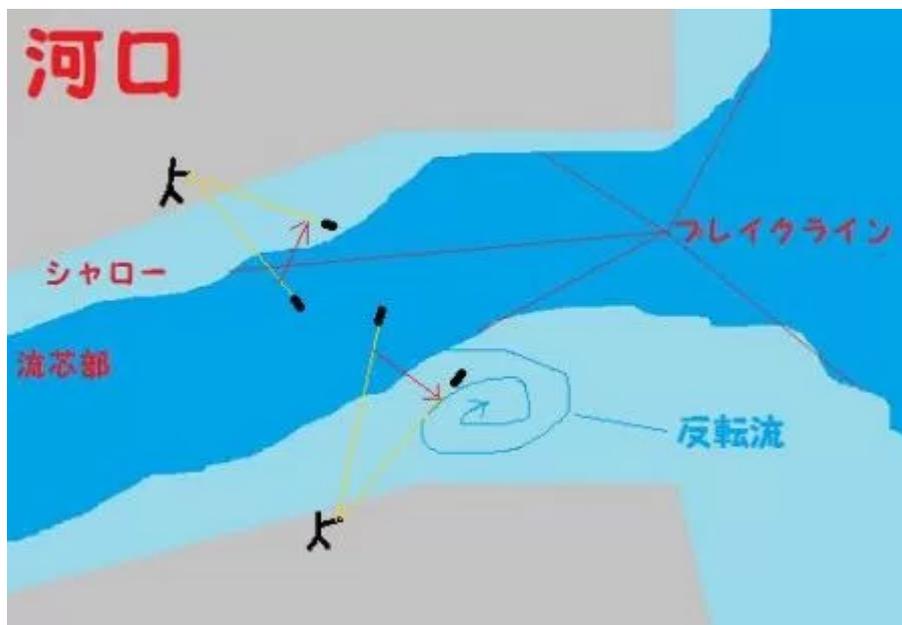
タックル性能の引き出し方。」

というタイトルで書いています。

そして、カケアガリなどの地形に

よって激流で**反転流**ができています

場所もかなり狙い目です。



ここは、若干流されてしまった
ベイトが集まる場所で、必ず
近くにシーバスがいます。

ベイトが確認出来ればの話ですが。

よく、反転流の向こう側へ
キャストしてまっすぐ反転流の
上をまたぐようにルアーを
引いてくるアングラーを
見かけます。

ですが、これでも釣れるときは
釣れますが、流芯部へルアーを投げて
ドリフトで反転流へ誘導するほうが

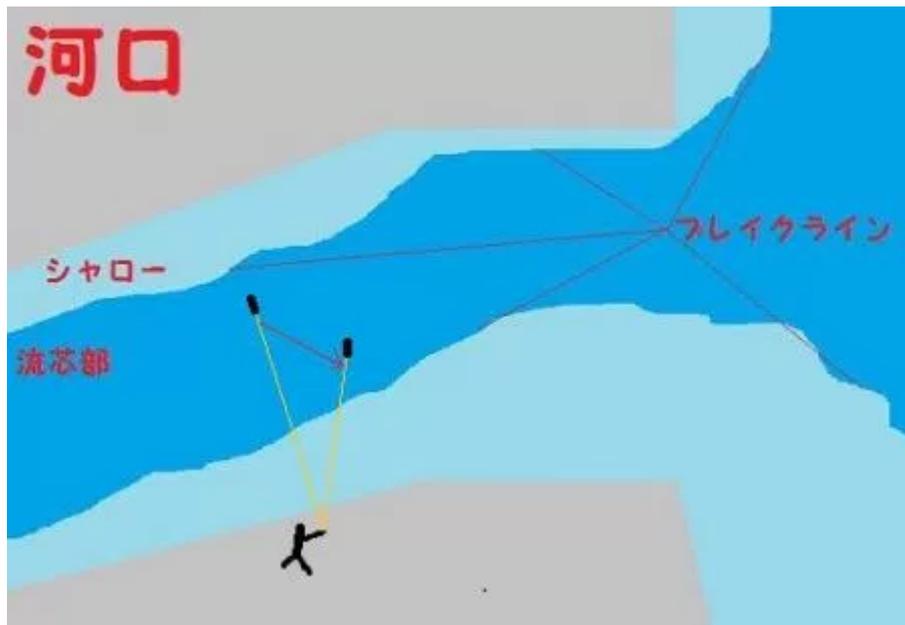
もちろん良く釣れます。

【チャンネルは？】

流芯部ではやることは一つだけ。

ぶっ飛び系のシンペンを

クロスストリームでフルキャスト。



流芯部に届いたらレンジを
キープして流されるだけ。

コツは竿を立てた状態で
ルアーを操作する事。

この時はラインがかなり
放出されているので、流れが
ラインに干渉してルアーの

向きを変な方へ向けます。

ですから、流れの干渉を
出来る限り防ぐために
水中からラインを出します。

こうするとルアーは頭を
若干上流へ向けた状態で流されます。

そして、もう一つ。

**ルアーの立ち上がりを出来るだけ
早くしてください。**

立ち上がりとは、シーバスが
ルアーにバイトするアクションを
水中で出すまでのタイムラグです。

ルアーはキャストして
着水した時には動いていません。

着水してリールを巻き、
ラインスラッグがなくなった
時に初めてルアーとしての
アクションを開始します。

ラインスラッグとは糸が
たるんでいてロッドアクションが
ルアーに伝わらない状態の

ときの事です。

いわゆる糸ふけの状態です。

流芯部に付いているシーバスに
食わせるには、このルアーの
立ち上がりスピードが非常に
大事になってきます。

なぜなら、

空から降ってきた物ではなく

泳いでいる魚が跳ねたものだと

シーバスに思わせる必要があるから。

シンペンの中でも立ち上がりの
早い物を使ったり、
釣技でカバーしたりします。

釣技でカバーする場合は
フェザーリングと言うか、
以前記事でお話したサミング
みたいなヤツを使ってください。

「初めてのルアーキャスティング、
シーバスサミング編。」

のタイトルでブログにて
解説させて頂いてます。

リールのスプールを指で抑える

フェザーリングではなく、

放出中のラインに手を触れる事で

抵抗を作り出して出来るだけ

ラインを張った状態で

ルアーを着水させる技です。

慣れればルアーにアクションを

伝えるのに着水から1秒かかりません。

流芯部に付いているシーバスは

着水して1秒後にヒットすることも

けっこうあります。

最初の数秒間の勝負になると

思って釣ってくださいね。

簡単にまとめますと

流されているベイトをリアルに

想像してドリフトを主体に

ポイントを攻めていくと

よく釣れるというお話でした。

最後まで読んで頂き

ありがとうございます。

それでは、また。

グッドラック！

【参考記事】

しんがライブ・オブ・シーバスと言うブログを
立ち上げた理念、その野望とは？

<https://seabass-live.link/?p=350>

シーバスとは？釣りに行く前に知っておいたほうが
いい秘密。

<https://seabass-live.link/?p=443>

実釣編記事を書くにあたってのシーバスルアーの
種類別解説と使い分け。

<https://wp.me/p6NdM5-9y>

シーバスフィッシングで爆るための
ホームフィールドの決め方！

<https://seabass-live.link/?p=458>

最初にマスターすべきリーリング、リトリーブ、
つまり引き方の基本。シーバスを始めるあなたへ。

<https://wp.me/p6NdM5-8I>

【しんのメルマガ】

<https://wp.me/p6NdM5-ce>

【お問い合わせ】

<https://tinyurl.com/nra5bar>

【ブログ ライブ・オブ・シーバス!】

<https://seabass-live.link/>